

ニューズレター No.90

発行人 寺田 貢

2016(平成)28年9月5日発行

日本リメディアル教育学会、ニューズレターNo.90をお届けいたします。今回は、

- (1)英語部会主催第2回授業学研究会報告
 - (2)会誌「リメディアル教育研究」投稿手順の変更
- についてお知らせいたします。

英語部会主催第2回授業学研究会報告

英語部会主催第2回授業学研究会を下記のとおり開催いたしました。

日時 2016年8月13日(土)15:00~17:00

会場 さいたま市下落合コミュニティーセンター

講師 鈴木政浩先生(英語部会長)

内容

- (1)初級統計手法の流れ(相関→回帰→重回帰→SEM)
- (2)SPSSによる重回帰分析の出力結果の読み方
- (3)出力結果の数値をパス図に当てはめる練習
- (4)パス図全体の解釈

当日の研究会の様子を報告いたします。

最初に、統計処理の手法について、第1回研究会に続く形で解説をいただきました。次に、事前に配信されていたテキスト資料に沿って、回帰分析・重回帰分析を学びます。資料には、注目すべき箇所が一目瞭然となるように、鈴木先生ご自身による赤ペン・青ペンのメモが入っていました。

「わからなかったらすぐ質問するように」と強く励まされて、最初は遠慮がちだった参加者からも、徐々に多彩な質問が飛び出すようになります。

実践演習用のSPSS出力結果も事前に配信していただきました。つまり、予習課題です。この課題を確認する形で演習の時間が始まりました。出力結果のコピーとホワイトボードのパス図を見比べながら、どこにどの数値が入るのかを確認します。

パス図に数値を入れた後は、そのパス図を解釈する練習です。先行研究とはかなり異なる数値が得られたため、それをどう解釈す

るのか、参加者全員で議論します。解釈の方向性が見えてきたところで、終了時刻となりました。

SPSSによる重回帰分析の出力結果は3か所だけ見ればよいことなど、お宝情報が盛りだくさんの研究会でした。参加者同士でも示唆に富んだ意見が交換され、あつという間の2時間でした。

いかに充実した時間であったかをわざわざかなりともお伝えするため、参加者のコメントを載せさせていただきます。

事前に、サイボウズで配布いただいていた回帰分析と重回帰分析の資料を見てはきていましたが、書いてあることがどのような意味を持つのかということを見る着眼点がわからなかったこともあり、同う前は、読み取ったことがぼんやりしたものでした。

講義を聴き、実習を通して、Amosのパス図というものが結果を把握するための常套手段であること、そしてパス図を利用することで、結果全体像とそれぞれの関係がよくわかるということを知り、また、自分でどのようにパス図を描くのかを知り、回帰分析に関して、目の前が明るくなるような気分で、第2回が終えられました。

全ての疑問を受け入れてくださった鈴木先生、いろいろなご意見、ご質問で様々な見方をご提示くださった全参加者の先生方、たいへんありがとうございました。

第2回研究会から参加させていただきました。「回帰分析」「重回帰分析」などどのような場合に使うのか全く予備知識がなかったので、参加の申し込みをしてサイボウズに加えていただき、そこにある資料を拝見したときは、場違いなところに参加申し込みをしてしまったと青ざめました。

わずか2時間の講義でしたのに、初心者がどこでつまづきやすいかをよくご存じの鈴木先生のご指導を受けて、それまで意味不明な数字の羅列でしかなかったSPSSの出力結果からパス図を作るところまで実習することができたことは、驚きでした。

まだ一人で分析ができるようなレベルではありませんが、これまで分析方法がわからずに放置していた学生のテスト結果などのデータをSPSSにかけてみようという意欲が湧いてきました。おそらく最初は失敗するでしょうけれど、研究会で鈴木先生やご参加の先生方のアドバイスがあれば、最後までくじけずに論文を書けそうな気

がいたします。このような出会いを得られたことを心から感謝しております。今後ともよろしく願いいたします。

第2回研究会の資料を以前に添付ファイルで頂きましたが、資料を読んでも回帰分析と重回帰分析が十分に理解できていない状況で研究会に出席しました。しかし、鈴木先生のご講義を拝聴することで、徐々に理解できるようになりました。また、パス図の描き方から、数値の入れ方、数値の見方までご教示頂き、本当に有益な研究会でした。今後は、一人でも多くの方にご参加頂き、この研究会がますます発展することを祈っております。

相関係数 r の数値に有意確率を示す(アスタリスクをつける)のは、一体どういうことなのか、今まで誰にも聞けませんでした。初めて答えをいただいて感激しました。あまりに初歩的で聞きにくい質問は、研究会終了後に質問させていただきました。他の参加者の方々も間髪入れずにコメントを下さって、理解が深まりました。鈴木先生、皆さま、ありがとうございました。

本研究会は、量的・質的両面から授業分析を行い、望ましい授業の枠組みを追及することを目的として7月に発足したばかりです。他教科の先生方のご参加を歓迎いたします。また、学会員以外の方にも自由にご参加いただけます。

英語部会主催授業学研究会 ホームページ

<http://msuzuki.sakura.ne.jp/jadeng/jugyogaku/index.html>

記: 望月好恵(国際武道大学)

会誌「リメディアル教育研究」投稿手順の変更

2016年9月1日より、会誌「リメディアル教育研究」の投稿方法が変更になります。

論文などを投稿する場合には、Web上の投稿・査読システムを用います。さらに、原稿テンプレートも変更されます。以下に示す入稿手順と留意事項と別紙の「リメディアル教育研究投稿手順」と「原稿テンプレート」をご確認ください。

(1) 投稿原稿および依頼原稿のいずれについても、投稿・査読システムにアクセスして、必要事項を入力して下さい。

(<https://mc.manuscriptcentral.com/jjade>) 投稿原稿の提出締切日は

特に設定しておりません(いつでも投稿が可能です)。

(2) Wordによる原稿は、原則として、下からダウンロードしたテンプレートに文字・図・グラフ等を上書きして作成して下さい。このテンプレートでは、基本的に、和文フォントは明朝、半角の英数字・記号など欧文フォントはCenturyになっています。上と左右のマージンは20mm、下のマージンは25mmです。このテンプレートの印刷結果は、実際に刊行される紙面に近いものとなります。

(3) 原稿の種別ごとの刷り上がりページ数については、「投稿規程」を参照して下さい。和文原稿の場合、刷り上がりページでは、この原稿テンプレートの1ページ目に和文タイトル、和文筆名、キーワードが追加されます。要旨が必要な種別では、要旨も加わりません。さらに、1ページ目の左段の最下行には著者の所属機関名が追加されます。また、最終ページには英文タイトル、英文筆名、英文要旨(必要な場合)、英文キーワード、受付日と受理日が追加されます。これらの追加分を考慮して、刷り上がりページ数が制限を超えないように原稿を作成して下さい。

(4) 要旨は、投稿原稿のうち、「論文」、「実践研究論文」、「研究ノート」、「実践報告」、「資料」、「教材解説」は投稿時に入力必須です。また、記事種別により、日本語記事であっても英文での要旨が必須のものと、任意でつけられるものがあります。掲載決定した記事は、J-STAGEに搭載される予定ですが、J-STAGEは海外の論文検索システムとリンクしており、英文要旨があると海外から検索されやすくなります。記事種別ごとの要旨の必要の有無について、詳しくは、別表をご覧ください。なお、キーワードは、すべての種別の原稿に3個以上5個以下設定する必要があります。

(5) 原稿中に貼り付けた図・表等については、オリジナルのデータファイルを、投稿・査読システムの該当画面でアップロードして下さい。業者がレイアウト原稿を作成する際に使用します。

(6) 原稿中の図・表等をカラーで作成した場合でも、原則的に、仕上がりはモノクロ印刷となります。特別な理由があって筆者がカラーでの印刷を希望する場合には、実費を徴収いたします。その場合は、投稿・査読システムの該当画面でその旨を入力して下さい。

(7) すべての原稿は英文の題目などを記載していますので、それに合わせて図表を英語で記述してもかまいません。ただし、同一の和文原稿中では、図表の記述はすべて日本語あるいは英語のどちらかに統一して下さい。英文原稿の場合は、図表もすべて英語になります。

(8) 本誌ではダブルブラインドの査読を採用しています。新規提出時や著者照会による修正原稿提出時には、著者が特定される箇所を伏せ字にするなどして、著者が推測されにくいように配慮して下さい。

(9) この「入稿手順と留意事項」は、和文原稿を想定したのですが、英文原稿を提出される場合にも参考にして下さい。英文記事や要旨は、事前にネイティブチェックを行ってから投稿してください。なお、本学会の英語ネイティブ編集委員は APA 方式で書かれた原稿を推奨しています。書誌情報の書き方などについて迷う場合は APA のマニュアルに従って下さい。

※査読後、掲載可の判定が出た原稿については、業者がレイアウト原稿を作成し、著者校正の機会を設けます。したがって、入稿した原稿がそのまま版下になるわけではありません。しかしながら、テンプレートを使って作成した提出原稿は印刷原稿に見た目が近

いため、査読者にとって読みやすいものとなります。編集者・査読者は提出原稿によって作業を行います。負担軽減のため、できるだけ読みやすい原稿を作成するようにご協力下さい。

2016 年 9 月 1 日

日本リメディアル教育学会編集委員会

会誌への論文等の投稿について

会誌『リメディアル教育研究』では、リメディアル教育に関する研究、教材や教授法の開発と評価、実践の報告などについての原稿を募集します。投稿は本会の会員が筆頭者であるものに限り（編集委員会が特に認めた場合は、非会員からの論文等を掲載することもあります）。掲載の採否は、査読審査を経たのち、編集委員会において決定します。原稿料の支払い、掲載料の徴収はいたしません。

【文責】寺田 貢

【編集】大野 早苗

「リメディアル教育研究」投稿手順

JADE 会誌編集委員会

2016年9月1日

記事種別ごとの必要査読者数・刷り上がりページ数・要旨の有無

記事種別	依頼・投稿 の区分	言語	必要査 読者数	ページ数	要旨	
					英文	日本文
論文	依頼・投稿	日本語	2	6~16	○	○
実践研究論文	依頼・投稿	日本語	2	6~16	○	○
研究ノート	依頼・投稿	日本語	2	4~12	○	○
実践報告	依頼・投稿	日本語	1	4~12	△	○
資料	依頼・投稿	日本語	1	2~8	△	○
教材解説	依頼・投稿	日本語	1	2~8	△	○
展望	依頼※	日本語	1	2~8	×	×
解説	依頼※	日本語	1	4~8	△	○
論壇	依頼・投稿	日本語	1	2~8	×	×
随筆・随想	依頼・投稿	日本語	1	2~8	×	×
講座	依頼・投稿	日本語	1	4~8	×	×
座談会	依頼※	日本語	1	4~8	×	×
会員の声	依頼・投稿	日本語	1	1~2	×	×
会員の本（新刊紹介）	依頼・投稿	日本語	1	1	×	×
巻頭言	依頼	日本語	1	1~2	×	×
Research Paper	依頼・投稿	英語	2	6~16	○	○
Practical Research Paper	依頼・投稿	英語	2	6~16	○	○
Research Note	依頼・投稿	英語	2	4~12	○	○
Practical Report	依頼・投稿	英語	1	4~12	○	○
Data	依頼・投稿	英語	1	2~8	○	○
Review of Teaching Methods	依頼・投稿	英語	1	2~8	○	○
Overview	依頼※	英語	1	2~8	×	×
Interpretation	依頼※	英語	1	4~8	○	○
Column	依頼・投稿	英語	1	2~8	×	×
Essay	依頼・投稿	英語	1	2~8	×	×
Course	依頼・投稿	英語	1	4~8	×	×
Round Table Discussion	依頼・投稿	英語	1	4~8	×	×
Members' Voices	依頼・投稿	英語	1	1~2	×	×
Prefatory Note	依頼	英語	1	1~2	×	×
Introduction of Book	依頼・投稿	英語	1	1	×	×

○…必須 △…任意 ×…不要 ※…主として特集記事を想定

<新規投稿手順>

<p>1 ログイン</p>	<p>投稿者は https://mc.manuscriptcentral.com/jjade にアクセスし、ログインする。</p> <p>※アカウントがない者は、アカウントを新規作成する (事務局で代理作成することも可能)</p>	
<p>2 役割の選択</p>	<p>[著者]をクリック</p>	
<p>3 機能の選択</p>	<p>[著者 Dashboard]の[新規投稿の開始]をクリック</p>	
<p>4 投稿の開始</p>	<p>[投稿の開始]をクリック</p>	<p>標準の投稿には、複数のソースで作成されたファイルをアップロードできます。</p>
<p>5 手順1: 種別・タイトル・要旨の入力</p>	<p>記事種別、タイトル、要旨を入力</p> <p>※タイトル欄には、日本語記事の場合は日本語タイトルを、英語記事の場合は、英語タイトルを入力してください。</p> <p>※要旨欄には、日本語記事の場合は日本語要旨を、英語記事の場合は、英語要旨を入力してください。</p> <p>※サブタイトル欄には、日本語記事の場合は日本語サブタイトルを、英語記事の場合は、英語サブタイトルを入力してください。</p> <p>※英文タイトル欄は、日本語記事の場合のみ入力してください。</p> <p>※英文サブタイトル欄は、日本語記事の場合で英文サブタイトルがある場合は入力してください。</p> <p>※英文要旨欄には、(記事により) 英文要旨を入力してください。</p>	

<p>6 手順 2: キーワードの入力</p>	<p>キーワードを入力して、追加をクリック (3~5 個)</p> <p>※キーワード欄は、日本語記事の場合は日本語キーワードを、英語記事の場合は、英語キーワードを入力してください。</p> <p>※英語キーワード欄は、日本語記事で、英語要旨をつけている場合は入力してください。</p>	
<p>7 手順 3: 著者情報の入力</p>	<p>著者情報を入力</p> <p>まず、共著者のアカウントがあるかどうかを「著者の E-Mail アドレスで検索」でチェックします。すでに、共著者のアカウントがあれば、「著者の追加」をクリックして著者リストに追加するだけで OK です。</p> <p>検索に引っかからなかった場合は「共著者を作成してください」というリンクをクリックします。共著者の情報入力画面が表示されますので、適宜情報を入力し、「著者リストに追加」をクリックして著者リストに追加します。</p> <p>また、全著者の英語氏名および英語所属先名を Daniel Macpherson (University of New York) のような書式で入力します (必須)。</p>	
<p>7.1 共著者の追加</p>	<p>共著者のアカウントが作成されていない場合は、新規にアカウントを追加します</p>	

<p>8 手順4：チェックリスト</p>	<p>投稿時のチェック 原著確認や著作権の帰属・行使等に関し、チェックを行ってください。記入がないと、会誌に掲載できませんので、ご注意ください。</p>	
<p>9 手順5：ファイルアップロード</p>	<p>本文の PDF ファイル（著者情報なし）、word ファイル（著者情報なし）をそれぞれアップロード 論文のファイルをアップロードします。ファイル名には、半角英数字のみをご使用ください。 本文に、図や表が含まれる場合は、編集に使用するため、図の場合は、解像度の大きな JPEG 等のファイルを、グラフを Excel で作成している場合は Excel ファイル等編集可能な図や表のファイルを一緒にアップロードしてください。</p>	 <p>※投稿をせずに1ヶ月間放置した場合、アップロードしたファイルは自動で削除されます。</p>
<p>10 手順6：確認・投稿</p>	<p>入力事項を確認し、投稿する これまで入力した内容を確認します。 不備のある箇所には、左側に X マークが付きますので、その投稿ステップ番号をクリックして内容を修正してください。 すべての内容の確認が済みましたら、画面下の「PDF プルーフの表示」ボタンをクリックして査読用 PDF を確認します。確認後、右下の提出ボタンを押すと、投稿が完了します。</p>	
<p>11 提出の確認</p>	<p>提出の確認画面が表示される ※確認のメールが自動的に配信されます、このメールには、記事種別、記事番号等が記載されていますので、ご確認ください。</p>	

1 はじめに ←章（大見出し）

日本リメディアル教育学会のサイトで最新の「投稿規程」を確認する。各種別の論文の内容と刷り上がりページ数が記載されている。『リメディアル教育研究』誌の印刷原稿（電子出版含む）の本文は 2 段組、24 字×42 行×2 段である。Word を使用する場合、このテンプレートに上書きすることで、印刷原稿に近い原稿が作成できる。

2 原稿作成と入稿の準備

2.1 種別、題名、要旨 ←節（中見出し）

記事種別、タイトル、要旨は、投稿・査読システムの該当画面で入力する。さらに、キーワードと著者情報も入力する。

2.2 本文

2.2.1 文字

和文原稿の場合、基本的には、全角（明朝，10.5pt）で作成する。英文原稿の場合は、半角（Century，10.5pt）で作成する。

アラビア数字の表記は、何桁であろうとすべて半角（Century）とする。また、本文中のアルファベット（ラテン文字）も、すべて半角とする。

2.2.2 符号

括弧は、括弧内に全角文字がある場合、全角括弧を使用する。たとえば、文部科学省（以下、文科省）の両括弧は全角である。

一方、括弧内がすべてアルファベットや数字などの半角文字の場合、半角括弧を使用する。たとえば、谷川（2012a）の両括弧は半角である。

本文中の句読点は、原則として、和文の場合は「。」、「，」（全角）、英文の場合は「.」、「,」（半角）である。その他の言語や数式等が入る場合には、適宜、判断する。

2.3 見出し

印刷原稿の見出しは、すべてゴシックである。サイズはすべて本文と同じ、10.5pt とする。

それぞれの見出しには、階層に準じた通し番号を付ける。見出しの数字部分は、半角である。ただし、大見出しのみ数字も全角でボールドとする。

「大見出し」は、章（「1 はじめに」など）、「中見

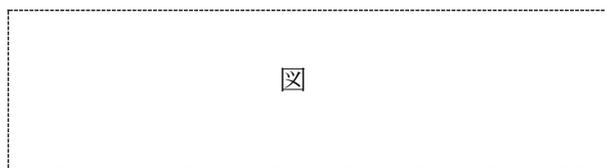


図 1 図題はセンタリング

出し」は、節（「2.1 種別、題名、要旨」「2.2 本文」など）、「小見出し」は項（「2.1.1 文字」「2.1.2 符号」など）を指す。

大見出しと中見出しの場合、見出しの上は 1 行あける。ただし、大見出しと中見出しが続く場合にはその間はあけない。また、小見出しの場合には、上下に行をあけない（本テンプレートの通りである）。

見出しの段数は 3 段（大見出し、中見出し、小見出し）までとする。階層をこのレベルまでに収め、これ以上に見出しを深くしない。

2.4 図表

2.4.1 色

会誌の印刷は原則として白黒になるので（カラー印刷は実費徴収で対応）、事前に必ず白黒印刷をして、読み取りに支障がないことを確認する。図表に外枠はつけず、背景は無色とする。

2.4.2 印刷仕上がりでの配置

図や表は、図 1 のように、段の最上部あるいは最下部にまとめるのが望ましい（印刷原稿では原則としてそのように配置される）。あるいは、表 1 のように、図表を本文中に埋め込むように配置してもよい。いずれの場合も、本文と図表の間は、1 行あける。

表 1 表題はセンタリング

表

すべての図表に、本文中で必ず言及する（本文中に言及のない図表が原稿に含まれていないことを確認する）。なお、図または表に本文中で最初に言及する際は、図 1 や表 1 のように、ゴシック+Arial で表す。同一

図表に再度言及する場合は、図 1 や表 1 のように、明朝+Century となる。

図表は、原則として、本文で言及があった箇所以降に埋め込む。貼り付ける図表が 1 段に収まらなければ、左右 2 段にまたがってもよい。なお、図表の挿入位置は、最終的には印刷所のレイアウト後に編集部の判断で決定する。

2.4.3 図題と表題

図題は、図の下に付ける。図題には、通し番号を付ける。「図 1」のように、図題はゴシック、図番は Arial である。たとえ原稿中に図が一つしかなくても、「図 1」となる。

表題は、表の上に付ける。表題には、通し番号を付ける。「表 1」のように、表題はゴシック、表番は Arial である。たとえ原稿中に表が一つしかなくても、「表 1」となる。

図題・表題が 2 行以上にわたる場合は、2 行目以降の書き出し位置は、1 行目の図題・表題の書き出し位置に揃える。

3 注と引用資料

3.1 注番号

注 (note) は文末脚注とし、番号は本文中の該当箇所の右肩に 1) のように上付き文字で表記する。数字と括弧は Century である。Word の注の挿入機能を 1) のように使用しても構わない。その場合、最終的に印刷所の作成するレイアウト原稿はこのテンプレートのようなになるので、校正の際に著者の思い通りの記載方法になっているかどうかを確認する。

同じ箇所に複数の注釈が関わる場合には、1²⁾や 1⁴⁾のようにする。

3.2 著者年号方式による引用資料の記載

本文中に登場する引用資料 (引用文献, reference) は、「リメディアル教育 (remedial / developmental education) というタームは、荒井克弘・羽田貴史 (1995, 1996) らによって提示されたのが最初と言われている (谷川, 2010)。」のような著者年号方式 (ハーバード方式) で書き、その資料を特定できる情報を稿末の引用資料リスト (引用文献リスト, reference list) に記載する。文献目録 (bibliography) を書くことはしない。背景の理解や知識に関する情報を与える

ために本文の内容に関わる文献等の資料を示したい場合には、本文や注釈の中でその旨を明記して引用する。

3.3 注

注は、本文のあとに 1 行あけて書く。本文中の言及箇所に付した注番号と注釈の番号とが対応しているかどうかよく点検する。

3.4 引用資料

注の後に、また 1 行あけて、引用資料のリストを書く。

引用資料が書誌である場合には、「著者」「年」「タイトル」「書誌情報」を記載する。オンライン出典から引用した場合には、書誌情報の後に URL を記載する。DOI を記載する場合には URL は記載しない。

そのほか、非刊行物などの場合には、読者がその資料にアプローチできるようにするための情報を記載する。

リストは筆頭著者の姓あるいは資料作成者の名称のアルファベット順に並べる。

その他、リストの記載の仕方や並べ方について迷う場合には、APA 方式に従う。

4 その他の注意事項

4.1 専門用語について

「リメディアル教育 2)」、「初年次教育」、「学力」など本学会の研究テーマと関係する専門用語を用いる場合には、執筆原稿の本文や注釈の中で定義を簡潔に示す。たとえば、「リメディアル教育」は、中央教育審議会 (2008) による「学士課程教育の構築に向けて (答申)」の用語解説では「大学教育を受ける前提となる基礎的な知識等についての教育をいう。」と簡単に定義されている。しかし、本学会誌の投稿論文執筆にあたっては、中教審による定義の問題点を把握することはもちろん、原語 remedial education やそれに代わって現在用いられている developmental education の用例について Arendale (2005) などが論じている内容を十分に踏まえるべきである。それらの議論はすでに谷川 (2012a) によって紹介・吟味されており、「補習的な意味合いではなく、卒業までに学生が学業を進めていく上において必要な学習支援」(谷川, 2009) という定義も学会内で広く通用している (谷川, 長尾,

2013a)。本誌に投稿する際には、先行研究を踏まえた上で、執筆者がその専門用語を、どの定義に基づいて使用しているのかが正確に理解されるように示す必要がある。

4.2 文章表現上の注意

4.2.1 本文の体言止めの禁止

本文の文章では、原則として体言止めはしない。文章として読み上げたときに意味が通じるように書くことを基本とする。

ただし、どうしても体言止めで項目を列挙したい場合には、小見出しを活用する。または、図あるいは表として構成し、本文から外に出す。あるいは、次のような箇条書きにしてもよい。

- ①このようなこと
- ②あのようなこと
- ③・・・・・・・・

4.2.2 記号について

本文中では「＝」「→」などの意味に幅のある記号はできるだけ使わず、文章化すること（数式として利用する場合を除く）。使うのであれば、その記号の意味するところをあらかじめ明示する。

4.2.3 対象者の表記

原則として、小学生は「児童」、中学生・高校生は「生徒」、大学生・短期大学生・高等専門学校生は「学生」と表記を統一する。大学院生は「大学院生」とする。

4.2.4 年号について

「昭和」や「平成」の年号は使用せず、原則として西暦で表現する。

4.2.5 その他、読みやすくするための注意

適切に段落分け、改行をし、読みやすい紙面になるように工夫する。ただし、原稿提出時には、ページ番号は入れない。

読者によっては、「及び」よりも「および」、「従って」よりも「したがって」というような「字面の白さ」を求める人もいる。これは強制ではないが、同一原稿の中で表記を一致させることは求められる。表記のゆれは、印刷所による校正の際に統一する場合がある。

5 おわりに

今回、電子入稿による投稿・査読システムの導入に際して Word 原稿テンプレートの改訂を行った。注や引用資料の示し方については、従来のやり方を変更したが、もとよりこれらは強制ではなく、旧テンプレートの様式も含め、各著者の責任において汎用性のある方法を取ることができる。英文原稿も同様である。

いずれにせよ、編集委員や査読者が読みやすく作業しやすい原稿が歓迎される。最終的には、レイアウトや文章表記について、編集委員が会誌全体のバランスを見ながら変更を提案する場合もあるが、その点了承されたい。

注（この行は 10.5pt）

- 1) 注はこのように、本文末にまとめて書く。ページごとの脚注としない。「注」の見出しには通し番号を付せず、ゴシック+ボールドとする。注の番号とともに、注の文字サイズは、10pt とする。
- 2) 『リメディアル教育研究』第 8 巻第 1 号 (2013) には「総括『リメディアル教育』の定義: Developmental Education への移行に向けて」という特集が組まれているので、参照されたい。

引用資料（この行は 10.5pt）

- Arendale, D. (2005). Terms of Endearment: Words that Define and Guide Developmental Education. *Journal of College Reading and Learning*, 35(2), 6–82. <http://files.eric.ed.gov/fulltext/EJ689656.pdf>
- 谷川裕稔. (2009). 学士力育成に向けてのリメディアル教育のあり方 (特集号の企画を振り返って). *リメディアル教育研究*, 4(2), 1–4.
- 谷川裕稔. (2012a). わが国の教育・支援プログラムおよびサービス. 谷川裕稔他 (編). 学士力を支える学習支援の方法論, pp.40–52. ナカニシヤ出版.
- 谷川裕稔. (2012b). 「リメディアル教育」と「初年次教育」の概念使用上の混乱に関する一考察. *日本リメディアル教育学会第 8 回全国大会発表予稿集*, 236–237.
- 谷川裕稔, 長尾佳代子. (2013a). 再考: 「リメディアル教育」概念. *リメディアル教育研究*, 8(1), 43–48.
- 中央教育審議会. (2008). 学士課程教育の構築に向けて (答申). 文部科学省. http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm

以上

1 Arial Bold 10.5pt

1.1 Arial 10.5pt

Century 10.5pt

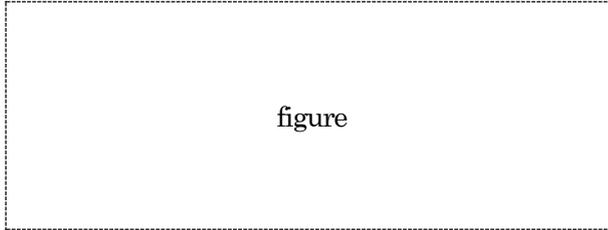


Figure1 xxx

Table1 xxx

table

Notes (Arial Bold 10.5pt)

- 1)
- 2)

References (Arial Bold 10.5pt)

¹ Word の注挿入機能を使った場合、注はこのようになる。この機能を使う場合には、提出原稿内の注をすべてこれに統一し、異なる書式の注が混ざらないようにする。